

## 武蔵野市第六期長期計画策定委員会 作業部会（第3回）

日 時：平成30年11月8日（木） 午後6時30分～午後6時55分

場 所：市役所411会議室

### 1. 開 会

### 2. 議 事

#### ・教育長との意見交換

教育長が教育分野の課題認識について説明した（公共施設の複合化・多機能化、文化・生涯学習・スポーツ施策の所管、学ぶ意欲と自己肯定感、教員の働き方改革と育成、特別支援教育の方向性と公立学校の多様性、学校と地域との関係、人生100年時代における生涯学習施策、市営プール・中央図書館・市民会館等の方向性、等）。

【委員長】 六長の方向性についてはこれから議論するので、策定委員会として現時点でまとまった方向性があるわけではない。きょうは各委員の質問や意見があれば教育長に伝えていただきたい。

【副委員長】 3点確認したい。自己肯定感と自己有用感という言葉と同義のようにに使われたが、自己肯定感（self-esteem）と自己有用感（self-efficacy）は教育心理学上も心理学的にも異なる概念である。武蔵野市ではどのように扱っているのか。

次に、特別支援学級の方向性について、インクルーシブの考え方は、必ずしも全てを同じ対応にするのではなく、それぞれの状況に合わせた形で対応していくという発想である。インクルーシブの平等原理が「全員を同じ扱いにする」と誤解されることがあるが、特別支援学級のインクルーシブの理念をどのように考えているか。

3点目として、施設の複合化・多機能化の検討については、学校長の同意や理解が重要だと思うが、学校長に対して、市の施策の方向性を理解してもらうことは可能なのか。

【教育長】 自己肯定感と自己有用感は違う概念であることは理解しているが、教育的な価値としてどこまで求めるかについては議論があり、今後整理して使用して行きたい。

特別支援教育については、1人1人の教育的ニーズに合わせて、その子に必要な教育の環境を提供していきたいという考えである。

施設の複合化・多機能化については、学校ごとに違いはあり得るが、これから関係者とともに「学校施設整備基本計画」を策定し、方針を立てていくところである。

【A委員】 貧困、多国籍等の多様性の問題が公立学校のアドバンテージになるということについて、教えていただきたい。

【教育長】 今までの教育内容は、知識、スキル、情意の大きな3点のうちの知識の面について注目することが多かったと認識している。似た学力の子どもたちを集めて、均質化したグループに教育することは効率的だが、これからは、他者との協働や創造性の面から、多様な考え方や背景をもつ人たちの中で、どう調和させ、折り合いをつけていくのかを学べる環境が重要である。そのような環境面が公立校には優位性があるのではないかと考えている。

【B委員】 PTAについて、小学校や中学校のPTAは今も全員加入で、在学中に必ず重い役職につかなければいけないという状況が続いているのか。また、P連の当番校は今も順番制で、逃れられない状況にあるのか、昔と変わっていないのか現状を確認したい。

【教育長】 委員のおっしゃるとおりで、現実には大きく変わっていない面がある。

【委員長】 PTAの大変さや加入しないことについて問題になるが、具体的には何が大変なのか。

【B委員】 学校によって違うだろうが、子どもの在学中は、重要な役職を1回は務めなければならず、会議や作業、連絡業務等で週に1回は学校に行かなければならなくなる。登下校を整理する役割の当番決めや運営の段取りなどもある。それらを平日の昼間に行わなければならない点が大きな負担であろう。

以 上